



頭痛や関節痛、倦怠感など、気温や湿度、気圧の変動を原因とするさまざまな体調不良を総称して「気象病」と呼ぶ。特に梅雨の時期や台風シーズンは症状を訴える人が増えるといい、注意が必要だ。このうち「天気頭痛」について、詳しい医師に尋ねた。

## 天気頭痛

気象病という名称は正式な病名ではありませんが、古来より気象の変化で体調が変化することは広く認知されており、リウマチの痛みやぜんそくの発作が一定の気象条件下で増悪しやすいこともよく知られています。特別な病気を持っていない方でも、雨が

圧迫するという説や、気圧の低下を内耳が感知し、交感神経を刺激するなどの説があります。この天気頭痛に対してよく用いられるのが「利尿作用」を持つ五苓散という漢方薬です。利尿作用というと西洋薬の利尿薬と混同されやすいで

含まれる成分が脳に多く存在するアキアポリン4 (AQP4) という物質の働きを阻害して脳のむくみを改善することが解明されており、これが天気頭痛に有効な理由と考えられています。他にも利尿作用を持つ漢方薬として、茵陳五苓散や苓

を察知して知らせてくれる「頭痛ー」などのスマホアプリも開発されており、これによって天気頭痛の発症を早めに感知して予防的に漢方薬を服用するのも効果的です。

(兵庫真医師会、西本隆二  
西宮市、西本クリニック院長)  
◇第1、3、4日曜に掲載  
します。

## 「利尿作用」持つ漢方薬が有効

降り出す前や低気圧・台風の接近などで頭痛が発生することがしばしばあり、これを天気頭痛(あるいは気象痛)と呼んでいます。

天気頭痛の原因としては、気圧の低下により全身が膨張したり、血管が広がってむくみが起こったりして脳神経を

すが、利尿薬が体の中の水分を一方向的に排出するのに対して、五苓散の利尿作用は、体内における水の局在を改善し、本来行つてはいけない方向に流れる水分を正しい方向に導く作用があると言われています。

西洋医学的には、五苓散に桂朮甘湯、柴苓湯なども知られています。これらのお薬を患者さんの体質に応じて使い分けるのが漢方治療の特徴であり醍醐味ですので、使用に関しては漢方専門医の助言を受けることを強くお勧めします。

また最近では、気圧の変化